

# 教育研究業績書

2025年05月07日

所属：社会福祉学科

資格：教授

氏名：堀 善昭

研究分野	研究内容のキーワード
社会福祉学、政策学、社会学、ヒューマン・セキュリティ学	権利擁護、成年後見、社会事業史、地域福祉、高齢者福祉、ソーシャルワーク、介護、ケア、精神保健福祉、社会政策、社会保障、社会学
学位	最終学歴
博士（ヒューマン・セキュリティ）	同志社大学 総合政策科学研究科 ヒューマン・セキュリティ専攻 博士課程（後期課程）修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 大心3年生担任業務	2024年4月1日～2025年3月31日	3年生の担任業務をおこなった。
2. 大心2年担任業務	2023年4月1日2024年3月31日	社会福祉コースへ進学した学生に対し指導をおこなった。
3. 大心1年担任業務	2022年4月1日2023年3月31日	次年度から新学科となるため最後の心理・社会福祉学科の1年生となる。不安が生じないように丁寧な指導をおこなった。
4. 公務員対策	2021年4月1日～現在	一次試験のSPIや小論文対策、さらには二次試験の面接対策などをおこなっている。またOGを呼び、行政職の魅力などを語らう場を創出している。
5. 国家試験対策	2021年4月1日～現在	3年生の自主勉強会を組織し、オブザーバー参加をしている。WEB（ライブ型）が中心であるが、学生が主体的に学べるよう資料提供や助言などをおこなっている。
6. 大心2年担任業務	2021年4月1日2022年3月31日	社会福祉コースに分かれた学生に対し、教務、学友会活動、進路指導、さらには卒業生との交流にあたり、学生自身の将来像をイメージできるよう取り組んでいる。また授業においてもオンラインが大半であるため、学生同士の交流もWEB上でおこなっている。
7. 初期演習の運営	2020年4月1日2021年3月31日	緊急事態宣言が発令されることに伴い、すべてオンライン授業となった。担任として、入学し一度も顔を合わせたことのない新入生同士との交流を深めるべく、オンラインおよび対面授業の工夫をし、互いが議論できる工夫をおこなった。
8. 編入希望者への進路指導	2018年04月01日2019年03月31日	短大から大学への編入希望者に対して、進路指導をおこなっている。
9. 大心2年担任業務	2018年4月1日2019年3月31日	社会福祉コースに分かれた学生に対し教務、学友会活動、進路指導、さらには卒業生との交流にあたり、学生自身の将来像をイメージできるよう取り組んだ。
10. 丁寧なフィードバックを心がけた授業展開	2017年04月01日～現在	100名規模の授業であっても一人ひとりの質問に答えていくとともに、レポートなどはコメントを添えて返却している。
11. リアリティを持った授業展開の実施	2017年04月01日～現在	社会福祉の実践を自ら伝えるとともに、現場の最前線に活躍している著名な実践家を招聘し、現場のリアリティを肌で感じることでできる授業展開を行っている。
12. きめ細やかな論文指導	2017年04月01日～現在	卒業論文執筆に向けて個別指導を行っている。
13. 双方向授業の展開	2017年04月01日～現在	学生の学びを創発させるような授業展開を実践している。
14. 面接対策（キャリア支援）	2017年04月01日～現在	公務員採用一次試験を通過した学生に対し、面接対策をおこなった。結果的に全員合格することができた。
15. 学生進路における個別面談の実施	2017年04月01日～現在	1年生のコース分け（心理コース、社会福祉コース）に関する個別面談の実施と2～4年生に対する就職相談を個別的に実施している。
16. 教育の質向上の実践	2017年04月01日～現在	国家試験対策における合宿や模擬試験などを、日々の授業との連携をはかるよう授業の内容を工夫している。
17. 大心1年担任業務	2017年04月01日2018年03月	個別面談を行いつつ、学生の主体性をはぐくめるよう

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
18. 初期演習における基礎力養成	31日 2017年4月1日2018年3月31日	な教育実践を行った。 少人数のグループに分かれ、自ら設定した課題に対し取り組む。課題では、深い洞察力を養うとともに、成果物を報告するプレゼンテーション能力も高める授業展開を行った。
19. 教材開発（国家試験対策）	2017年04月～現在	国家試験科目は難解な用語が多いため、クイズ形式などの教材開発に取り組んだ。
20. 授業方法改善（アンケート）	2017年04月～現在	学生には、毎授業ごとにアンケートを提出、日々授業方法の改善に努めている。また、質問がアンケート上出てきた場合、次回の授業でその質問に答えるように工夫している。
21. FD推進委員会による授業公開	2016年11月22日	FD推進委員会からのコメントでは、大講義室での授業にも関わらず、学生への主体的な学びへの取組がなされていると評価を受けた。
22. 授業改善奨励制度による表彰	2016年08月19日	対話型授業の工夫した実践を紹介し、受講生への効果なども報告し、学長より表彰を受けた。
23. コミュニケーションシートを用いた授業の振り返り	2016年04月～現在	授業の振り返りとしてコミュニケーションシートを提出してもらい、次回の授業において、復習と授業方法の改善を行っている。
24. 卒後教育の支援	2016年04月～現在	社会福祉現場で就労する卒業生に対し、支援を行った。
25. キャリア支援対策	2016年04月～現在	エントリーシートの添削などを行い、学生の支援を行っている。
26. 社会福祉士実習巡回指導と社会福祉士及び精神保健福祉士実習先開拓	2016年04月～現在	社会福祉士実習機関へ巡回指導を行ない、社会福祉士及び精神保健福祉士の実習機関の開拓を行なっている。
27. 地域との協働実践	2015年10月～現在	ゼミ活動の一環として児童虐待防止運動(オレンジネット)街頭啓発活動に、民生・児童委員、西宮市、甲子園警察とともに参加した。
28. 大心2年担任業務	2015年04月01日～2016年03月31日	社会福祉コースに分かれた学生に対し教務、学友会活動、進路指導、さらには卒業生との交流にあたり、学生自身の将来像をイメージできるよう取り組んだ。
29. 小論文対策	2015年04月～現在	面接・小論文対策を行っている。各自自治体に合わせた面接、小論文対策などをおこなった。
30. 国家試験対策のための合宿の実施	2014年09月～現在	国家試験対策のための合宿を実施している。3年・4年生に対し、国家試験合格にむけてのモチベーション向上に努めた。また、学生による合宿委員も組織化し、夏と冬の運営に携わっている。
31. アサイメント課題を活用した授業展開	2014年09月～現在	授業時だけでなく、授業前後の学びの時間を増やすべく、事前事後にアサイメント課題の提出を義務付けた。
32. 大心1年担任業務	2014年04月01日～2015年03月31日	1年Dクラス担任として体育祭、丹嶺宿泊研修、文化祭などにも積極的に取り組むとともに、プレゼンテーション能力を高めることができるよう、教育活動を展開した。
33. 公務員対策の実施	2014年04月～現在	公務員を志望する学生に対して個別指導を行うとともに、現職との交流（説明会や訪問）も行った。結果的に、公務員になる学生が格段に増えた。
34. 国家試験対策委員の組織化	2014年04月～現在	国家試験対策委員を組織化し、全員が合格できるように学生の動向をニーズをとらえる工夫を行った。結果的に、合格率が格段に飛躍し、全国4位、私大1位（受験者数35名以上）などを獲得した。
35. 国家試験自主勉強会の運営管理	2014年04月～現在	国家試験自主勉強会運営のためのノウハウ構築を行うとともに、可能な限り自主勉強会に教員も参加し、学生の質問に答えるようにしている。
36. ラーニングcommonsを活用した双方向授業	2014年04月～2016年03月	学習者中心の「学び」を実践し、学生自ら主体的な学びを創出するような授業展開を実施した。
37. 大心2年生担任業務	2013年04月01日～2014年03月31日	社会福祉コースに分かれた学生に対し、担任として教務、学友会活動、進路指導にあたった。
38. キャリア支援におけるポートフォリオ作成	2013年04月～現在	「女性のライフステージとキャリア」及び「専門演

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
39. PBLを取り入れた授業実践	2013年04月～現在	習」や講義科目において、キャリア形成に向けての動機づけを行うとともに、ポートフォリオ作成のための自己分析も行った。 地域における様々な福祉ニーズを学生自身が中心となって課題をたて、プロジェクトを報告するという授業展開を行った。
40. 大心1年生担任業務	2012年04月01日～2013年03月31日	1年Dクラス担任として体育祭、丹嶺宿泊研修、文化祭などにも積極的に取り組んだ。
41. ロールプレイを取り入れた授業実践	2011年04月～現在	ソーシャルワーク教育、演習授業において、面接場面を想定したロールプレイを行うことでより実践力を高めるよう工夫した。
42. グループワークを取り入れた授業実践	2011年04月～現在	20人規模から120人程度の授業では、可能な限り少人数に分かれてグループワークを持つ機会を作った。講義での内容を深め、都度振り返れるような取組を行った。
43. マルティメディアを活用した授業	2011年04月～現在	マルチメディアを活用し、授業に対し適切な機材を活用するとともに、わかりやすい授業展開を心がけた。また、毎授業時に配布しているコメントシートを参考にし、学生の声を次週に反映するよう授業展開を行った。
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 成年後見制度はどのように活用をするべきか、その概要と活用方法	2024年4月2日	ケアスル介護記事： <a href="https://info.mukogawa-u.ac.jp/publicity/medialist">https://info.mukogawa-u.ac.jp/publicity/medialist</a>
2. 地域福祉の今を学ぶ	2010年03月	共著（妻鹿ふみ子、長沼豊、桜井政成、加山弾、堀善昭 他）（pp.116-125）地域福祉を学ぶ学生や実践者に対し、地域福祉の意味、理論その背景にある福祉の状況等を、具体的事例をとおして示している。社会福祉士国家試験学習者に対するサブテキストとして使用している。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 京都市日常生活自立支援事業生活支援員研修	2022年11月28日	生活支援員の業務を振り替えるべく、事例検討および研修を行った。
2. 西宮市社会福祉施設整備法人審査会委員	2021年8月1日～現在	西宮市内の社会福祉施設の整備に関する審査会の委員として活動している。
3. 西宮市立寿園のあり方検討懇話会	2021年7月1日2022年3月31日	西宮市立寿園の今後のあり方を議論し、議会に上程する素案を作成する懇話会の委員として活動している。
4. 京都市日常生活自立支援事業契約締結審査会委員長	2021年6月1日現在	日常生活自立支援事業契約締結審査会委員長を担っている。
5. 京田辺市高齢者保健福祉計画策定委員委員長	2020年11月1日～現在	高齢者保健福祉計画の策定を担っている。
6. 権利擁護フォーラム	2020年03月04日	京田辺市権利擁護フォーラム シンポジスト
7. 京都市市民後見人養成研修	2020年02月07日	京都市内在住の市民に対し、市民後見人養成研修を行った。
8. きょうと高齢者・障害者生活支援センター	2019年10月8日	京都府北部地域の市民後見人に対する現任者研修をおこなった。
9. 堺市市民後見人養成研修	2019年7月4日	主に堺市民を中心に市民後見人養成研修をおこなった。
10. きょうと高齢者・障害者生活支援センター	2018年05月28日	京都府南部地域の市民後見人に対する現任者研修をおこなった。
11. きょうと高齢者・障害者生活支援センター	2018年05月21日	京都府北部地域の市民後見人に対する現任者研修をおこなった。
12. 大阪市民後見人現任者研修	2018年05月19日	大阪市の市民後見人に対する現任者研修をおこなった。
13. 生駒市権利擁護支援サポーター養成研修	2018年01月27日	生駒市の権利擁護支援サポーターの養成研修をおこなった。
14. 京都府山城南社会福祉協議会	2017年08月28日	日常生活自立支援事業の担い手である生活支援員に対し研修を行った。
15. 大阪府社会福祉協議会 権利擁護センター	2017年04月01日～現在	市民後見人養成研修を行うとともに、選考委員として活動している。
16. 堺市社会福祉協議会 権利擁護センター	2017年04月01日～現在	市民後見人養成研修を行うとともに、選考委員として

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
17. 京都市成年後見支援センター運営委員	2017年4月1日2023年3月31日	活動している。 市民後見人養成研修を行うとともに、選考委員として活動している。
18. 毎日新聞 記事掲載	2017年03月31日	高齢者施設に関する講演の内容が新聞記事として掲載された。
19. 生駒市権利擁護センター	2017年03月02日	市民向けのシンポジウムにおける権利擁護に関する講演を行った。
20. 吹田市社会福祉協議会	2017年01月22日	吹田市社会福祉協議会主催の年始に開催される社会福祉大会において、基調講演を行った。
21. 京都山城北・中部社会福祉協議会	2016年02月03日	日常生活自立支援事業の生活支援員に対する講演を行った。
22. 大分大学公開講座	2013年11月03日	社会福祉サービスにおける組織マネジメントについて講演した。
<b>4 その他</b>		
1. 京都府及び京都家庭裁判所との懇談会	2017年4月1日2023年3月31日	京都府、京都家庭裁判所、弁護士会、司法書士会、社会福祉士会との合同会議を2ヶ月に1回行っている。家庭裁判所や各専門職の最新の動向を授業に紹介している。
2. 日本社会福祉士養成校協会 近畿ブロック運営委員	2014年04月01日2016年03月31日	社会福祉士を養成している学校間の連絡調整を行った。
3. 日本ソーシャルワーク教育学校連盟近畿ブロック担当	2014年04月01日2016年03月31日	ソーシャルワーク教育を提供している近畿圏内の教育団体の取りまとめを行った。
4. 西宮市人権・同和教育協議会 高校・大学部会 委員	2011年04月～2016年03月	西宮市内の高等学校・大学が定期的に集い、人権教育の在り方を研究している。
5. 同志社大学社会福祉教育・研究支援センター 嘱託 研究員	2007年11月～2011年03月	事例研究・研修プロジェクトに参加し、研究分析を行った。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 実務者教員養成研修 修了（介護福祉）	2015年4月	日本介護福祉士会
2. 介護教員講習会修了	2015年3月	大阪介護福祉士会
3. 認定社会福祉士制度経過措置期間におけるスーパーバイザー	2013年12月	S13-035
4. 精神保健福祉士	2013年04月	57428号
5. 精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会（実習分野）	2012年03月23日	C2011-111
6. 社会福祉士実習演習担当教員講習会（実習分野）	2011年09月09日	2011-46
7. 社会福祉士実習演習担当教員研修（演習分野）	2011年09月02日	2011-46
8. 小規模多機能型サービス計画作成担当者	2009年10月23日	95（京都市）
9. 認知症対応型サービス事業開設者	2008年09月12日	31（京都市）
10. 認知症対応型サービス事業管理者	2008年02月15日	108（京都市）
11. 社会福祉士養成実習指導者	2008年02月15日	全社学証発343
12. 介護支援専門員	2008年02月	26070087
13. 介護福祉士	2007年04月	第D-349960
14. 社会福祉士	2006年04月	第71548
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 京田辺市権利擁護地域連携ネットワーク協議会委員	2024年7月30日～現在	京田辺市権利擁護地域連携ネットワーク協議会の委員として活動する。主に、成年後見制度等における利用促進を議論し、市域における権利擁護体制整備に努めている。
2. 京田辺市高齢者保健福祉計画委員会 委員長	2022年12月1日～現在	
3. 西宮市社会福祉施設整備法人審査会委員長	2021年4月1日～現在	
4. 第三者評価委員	2019年04月01日～現在	京都市
5. 成年後見支援センター事業及び休日夜間福祉電話相談事業委託事業者選定委員会委員	2017年11月01日～2018年03月31日	大阪市福祉局
6. 大阪府社会福祉協議会大阪後見支援センター運営委員	2017年04月01日～現在	大阪府社会福祉協議会

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
7. 京都市成年後見支援センター運営委員	2017年4月1日2023年3月31日	京都市社会福祉協議会
8. 第三者評価制度 評価委員（神戸市）	2015年6月1日2022年3月31日	神戸市老人福祉施設連盟
9. 日常生活自立支援事業締結審査委員会および法人後見事業審査会	2015年04月～現在	京都市社会福祉協議会
10. 介護・福祉第三者評価事業	2007年11月21日～2011年03月31日	京都市老人福祉施設協議会
11. 京都市介護認定審査会委員	2007年04月～2011年03月	京都市
12. 情報公表制度調査者	2006年08月～2011年03月	京都市老人福祉施設協議会
<b>4 その他</b>		
1. 社会福祉学科 幹事教授	2023年4月1日～現在	
2. 心理・社会福祉学科 社会福祉領域主担	2020年4月1日2023年3月31日	
3. 教育懇談会（広島）	2019年08月25日	
4. 教育懇談会（金沢）	2017年09月03日	
5. 鳴松会の日 講演	2017年05月28日	
6. ばあとなあ京都 事業部長	2017年4月1日2023年3月31日	
7. オープンキャンパスへの積極的な参画	2017年04月～現在	
8. 教務委員	2016年04月01日2019年03月31日	
9. 入試委員	2014年4月1日～2024年3月31日	
10. ばあとなあ京都 ブロック長	2014年04月01日～2017年03月31日	
11. 社会福祉法人一羊会 第三者委員	2013年06月～現在	
12. 日本社会福祉士養成校協会 近畿ブロック運営委員	2013年04月～2015年06月	
13. 教育講演会（広島）	2012年09月	
14. 共通教育委員	2012年04月01日～2016年03月31日	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 高齢者福祉施設における援助活動の歴史の変遷	単	2027年10月1日刊行予定	ミネルヴァ書房	高齢者福祉施設における援助活動の歴史展開を事例をもとに考察する。
2. よくわかる権利擁護を支える法制度	共	2025年10月刊行予定	ミネルヴァ書房	編者代表として現在執筆中である。
3. 共生社会創造におけるソーシャルワークの役割	共	2020年02月29日	上野谷加代子編「共生社会創造におけるソーシャルワークの役割」第10章を担当した。	地域共生社会における社会福祉法人の役割を高齢者福祉施設を事例として取り上げ論考している。
4. はじめて学ぶ子供の福祉 社会福祉	共	2017年08月01日	ミネルヴァ書房	倉石哲也、伊藤嘉余子、堀善昭 本書は保育士養成テキストであるが今回は、社会福祉制度と法律、さらには社会福祉機関について記述した。
5. よくわかるシリーズ 権利擁護と成年後見制度 改訂版	共	2017年04月01日	ミネルヴァ書房	堀善昭、永田祐編著『権利擁護と成年後見制度』の第2版執筆し、編者代表として全体を取りまとめた。
6. よくわかるシリーズ 権利擁護と成年後見制度	共	2016年04月10日	ミネルヴァ書房	堀善昭、永田祐編著『権利擁護と成年後見制度』に関する教科書を執筆し、編者代表として全体を取りまとめた。
7. 新しい福祉サービスの展開と人材育成	共	2010年03月	法律文化社	（埋橋孝文、野村裕美、片岡哲司、田中希世子、堀善昭 他）（pp.138-142）福祉サービスの人材育成をめぐる理論と実践、教育と研究、国内と海外の分野を架橋し、示唆している。堀は事例用いた研修モデルの構築を担当した。
8. 高齢者ケア実践事例集	共	2009年10月	第一法規出版	（坪山孝、村川浩一、堀善昭 他）（pp.2191-2199）高齢者ケアの基本動向やケアの方法論、サービス評価など、多面的に示している。堀は地域包括支援センターの取組みを担当した
9. 福祉系学生の就職に対する意識調査報告	共	2008年10月	京都市老人福祉施設協議会	（山田尋志、三代修、真辺一範、堀善昭 他）pp1-24京都市内の福祉系学生に就職に対する意識調査をおこなった。堀は調査書の作成、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
書 10. 地域包括支援センターを受託しての現状と課題	単	2007年01月	全国社会福祉協議会『ふれあいケア』	回収、分析を担当した。 地域包括支援センターの現状を事例をもとに述べている。
<b>2 学位論文</b>				
1. 高齢者福祉施設における援助活動の歴史の変遷	単	2017年03月20日	同志社大学総合政策科学研究科総合政策科学専攻ヒューマン・セキュリティコース博士（博士後期課程）	近代から続く高齢者福祉施設の歴史の変遷を援助活動の視点から通史的に論考をくわえている。
2. 現代日本における社会福祉セクターの機能に関する研究	単	2008年03月	立命館大学社会学研究科 修士（博士前期課程）	わが国における社会福祉セクターは、多様化し利用者にとって選択の幅が増える一方、わかりにくさも存在する。そこで本研究では、事例をもとに社会福祉セクターの機能を分析した。
<b>3 学術論文</b>				
1. 第二次世界大戦前から戦中の民間養老院（査読付）	単	2024年3月31日	社会福祉学研究 Vol.1	戦火のさなかにおける高齢者福祉施設の動向と支援実態について論考をおこなった。
2. 老人福祉法下における高齢者福祉施設の動向と支援実態に関する研究（査読付）	単	2023年3月31日	武庫川女子大学人間学研究会 Vol. 35	老人福祉法下における高齢者福祉施設の動向と支援実態について論考をおこなった。
3. 高齢者福祉施設における医療的ケア化と専門職化（査読付）	単	2019年03月31日	武庫川女子大学人間学研究会 Vol. 31 pp13-23	1980年代から1990年代における高齢者福祉施設における医療的ケア化と専門職化をテーマとして、政策動向や具体的な実践事例をもとに、医療的ケアを中心に高齢者福祉施設の職員の専門職化が進められてきた当時の状況を詳細に分析している。
4. 高齢者福祉施設における支援の個別化と入居者の重度化（査読付）	単	2018年03月31日	武庫川女子大学人間学研究会 Vol. 30 pp21-33	2000年以降の高齢者福祉施設の現状を文献で捉え、実際の施設における人員配置等も含め論考した。
5. 終戦直後における高齢者福祉施設の現状と法制度化（査読付）	単	2018年03月31日	武庫川女子大学人間学研究会 Vol. 30 pp1-9	終戦直後における高齢者福祉施設の援助活動の実際と生活保護法との関係性を論考した。
6. 戦前期の養老院（査読付）	単	2018年03月31日	武庫川女子大学紀要人文・社会科学編 第65巻 pp11-18	第二次世界大戦以前の養老院における援助活動の実践を「救護法事業指針」を用いて分析した。
7. ばあとなあ京都の概況（査読付）	単	2018年01月01日	実践成年後見 Vol.72 p120	明治期における養老院では、高齢者に対し生きる意味を見出す支援がなされていた。この意欲を見出す支援は、生活支援学の全人的ケアの意味ともとらえることができる。
8. 明治期における養老院設立と援助活動の歴史的分析-ミッション性と拠点化	単	2013年3月	武庫川女子大学人間学研究会 Vol. 28 pp33-43	明治期における養老院の援助実践を、具体的な施設を通して分析を行った。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	単	2023年2月11日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会 近プロ賞選考委員
2. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	単	2022年2月5日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会 近プロ賞選考委員
3. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	単	2020年2月2日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会 近プロ賞選考委員長
4. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	単	2019年2月9日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会 近プロ賞選考委員

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
研究会査読委員			究・研修会	
5. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	共	2018年2月10日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会 近プロ賞選考委員
6. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	共	2017年2月11日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修会 近プロ賞選考委員
7. 日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研究会査読委員	単	2016年11月6日	日本社会福祉士会 近畿ブロック研究・研修大会	日本社会福祉士会 近畿ブロック大会における分科会発表原稿の査読委員
8. 地域福祉の新潮流を探る-グローバルズムとローカリズム	単	2013年6月9日	日本地域福祉学会 第5分科会 対象・対象者（高齢者）コメンテーター	地域福祉学会の分科会のコメンテーターとして、各発表者に対するコメントを述べた。
9. 現実をとらえる視点と方法-社会福祉研究法をめぐって	共	2008年2月23日	関西社会福祉学会 第11回若手研究者・院生情報交換会	社会福祉の研究法について発表を行うとともにパネリストなどに質問もおこなった。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 社会福祉施設の今日的使命を問う	共	2024年7月6日	鉄道弘済会 社会福祉セミナー	第一分科会にて発表
2. 中核機関等の整備のための自治体・関係団体における役割と連携について	単	2020年01月20日	家事関係機関と家庭裁判所との連絡協議会	中核機関等の整備のための三士会の取組を発表した。
3. 成年後見制度の利用促進に向けた取組における自治体・関係団体の連携について	単	2018年1月28日	家事関係機関と家庭裁判所との連絡協議会	利用促進に向けた取組を社会福祉士の立場として発表した。
4. 別府養老院における地域福祉実践に関する研究-創立者矢野嶺雄の施設実践からみた今日的な施設運営の課題-	単	2014年06月15日	日本地域福祉学会 第28回全国大会	別府養老院の実践を地域福祉の視点から歴史的に分析を行った内容を学会発表した。
5. 新人研修から見た職員定着率（特別養護老人ホーム）に関する研究	単	2008年09月	日本老年行動学会 第11回全国大会	新人研修を行うことで特別養護老人ホームに長く勤務する要因があることを結果として報告した。
6. 福祉系学生の就職に対する意識に関する研究	単	2008年09月	ヒューマンセキュリティ・サイエンス学会 第3回年次大会	福祉施設に就職した福祉系学生の意識調査を行った内容を学会発表した。
7. 現代日本における社会福祉セクターの機能に関する研究	単	2008年06月	日本地域福祉学会 第22回全国大会	わが国における社会福祉セクターの実践について、事例をもとに発表した。
<b>3. 総説</b>				
1. オーガナイズングのための基本原則：実践からの視点	共	2007年03月	同志社大学大学院 社会福祉学論集第21号	協力者として執筆。（室田信一，安宅るい，中村拓，奥村由衣，堀善昭他）pp46-47コミュニティにおいて活動するソーシャルワーカーが活動できる心構えを示している。堀は計画と記録の部分を担当した。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 通所介護事業所利用者における社会参加活動に関する研究 - 利用者の社会参加活	共	2020年6月20日	日本地域福祉学会 第34回全国大会	筆頭者として論文執筆並びに上記発表を行った（査読あり：緊急事態宣言下のためみなし発表）。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
動による変化に着目して－ 2. 成年後見制度の利用促進と権利擁護支援ネットワーク	単	2019年01月10日	京都市町村社会福祉協議会連合会 平成30年度役員セミナー	成年後見制度の利用促進と権利擁護支援ネットワークについて講演した。
3. 市民後見人養成講座	単	2018年10月06日	大阪府社会福祉協議会	市民後見人養成講座講師として活動した。
4. 幸せな終焉を迎えるために	単	2018年08月12日	毎日新聞	地総研フォーラムの様子が記事となった。
5. 幸せな終焉を迎えるために	単	2018年08月12日	奈良新聞	地総研フォーラムの様子が記事となった。
6. 高齢者福祉施設の選び方	単	2018年02月21日	生駒市介護者（家族）会	介護を語りあう集いの場として講演やシンポジウム（生駒市長、介護者家族）とおこなった。
7. 市民後見人養成講座	単	2017年09月16日	堺市社会福祉協議会 堺市権利擁護サポートセンター	市民後見人養成講座講師として活動した。
8. 高齢者福祉施設の選び方	単	2017年05月28日	武庫川学院鳴松会ミニ講演会	高齢者福祉施設の選び方について発表を行った。
9. 身上監護の知識と後見事務の実務	単	2016年10月2日	日本社会福祉士会	日本社会福祉士会の委託研修として、京都社会福祉士会が受託した成年後見人養成研修会である。身上監護の知識と後見事務の実務について発表する予定である。
10. 想いを引きだす利用者さんとの接し方について	単	2016年02月3日	京都山城北・中部社会福祉協議会	日常生活自立支援事業の専門員に対し、現任研修をおこなった。
11. 上野谷加代子先生 緑樹記念「助けじょうず 助けられじょうず」	共	2015年07月12日	リレートーク 発表者	上野谷教授の教えに対し、具体化した実践および研究内容を報告した。
12. 障害者差別解消法	単	2015年6月4日	兵庫県障害者雇用・就業支援ネットワーク会議 第1回県レベル会議	障害者差別解消法について報告した。
13. これからの実習マネジメントを考える－現場と養成校、学生の三者で本音を語ろう	単	2015年3月7日	日本福祉教育学校連盟 近畿ブロック支部・日本社会福祉士養成校協会 近畿ブロック共同セミナー	相談援助実習は、学生・機関・養成校が協働で実習に取り組む事になっているが、現状は三者が同じ場で協議した場面は見受けられない。そこで今回のセミナーでは、養成校の立場から報告を行った。
14. 福祉施設におけるマネジメントとケア	単	2013年11月30日	大分大学公開講座 第6回福祉社会科学講座 基調講演	福祉施設の人材に関するマネジメントを中心に講演した。
15. 日本社会福祉教育学校連盟・日本社会福祉士養成校協会合同セミナー	共	2013年03月8日	日本社会福祉教育学校連盟、日本社会福祉士養成校協会 近畿ブロック	養成校は、社会福祉法人・施設・団体・社協といかに連携するかというテーマのもと、シンポジストとして発表した。
16. 西宮市人権・同和教育協議会	単	2012年11月11日	第49回 西宮市人権・同和教育研究会	人権に配慮した授業実践を報告した。
17. てい談 利用者がその人らしく生活するための行事の工夫とは	共	2007年09月	全国社会福祉協議会『ふれあいケア』	（堀善昭，坪山孝，萱津公子）pp9-15施設における行事及びレクレーションについて具体的事例を通して述べている。
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 成年後見利用促進基本計画策定に向けた研究	単	2019年09月01日	学部長裁量経費の採択をえた。	成年後見利用促進基本計画の進捗状況をとらえ、今後の方向性を見出そうとした。
2. 包括的支援体制の構築に向けたプラットフォーム	共	2019年4月1日	科学研究費基盤研究（C）として採択	包括的支援体制構築に向け取り組み状況を各市町村に出向きとらえていくこととする。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
フォームの形成に関する研究			された。	
3. ハワイ・ソーシャルワーク・セミナー	単	2018年11月15日	公益社団法人ユニバーサル財団	ハワイ州におけるソーシャルワークの実態を把握すべく、学生1名の派遣に成功した。
4. 地域包括ケアシステム構築における高齢者福祉施設の役割に関する研究	単	2015年08月～2016年3月	科学研究費補助金 学内奨励金	地域包括ケアシステム上の高齢者福祉施設の位置づけが未だ確立していない現状を踏まえ、今後、わが国における先駆的な施設に関する文献収集とインタビューを行うで、地域包括ケア内の位置づけを明確にしようとしている。
5. 高齢者福祉施設における援助活動の歴史の変遷	単	2012年09月～2013年3月	科学研究費補助金 学内奨励金	建物などのハードウェアと援助内容といったソフトウェアは、歴史的にどのように変遷してきているのかを分析した。
6. 大学院研究高度化推進特別経費	単	2010年04月～2011年3月	同志社大学大学院	140年続く高齢者福祉施設の文献収集および分析を行った。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2023年4月1日現在	武庫川社会福祉研究会
2. 2017年05月～現在	日本成年後見法学会
3. 2017年4月1日2023年6月30日	ばあとなあ京都事業部長
4. 2017年04月～現在	日本社会事業史学会
5. 2017年4月～2023年3月31日	権利擁護センターばあとなあ京都 事業部長
6. 2015年03月～現在	日本生活支援学会
7. 2014年04月01日2017年03月31日	権利擁護センターばあとなあ京都 中部Bブロック長
8. 2011年4月2023年3月31日	人間学研究会
9. 2008年10月5日～現在	日本福祉教育・ボランティア学習学会
10. 2008年07月3日～現在	日本老年行動科学学会
11. 2008年04月～現在	ヒューマンセキュリティ・サイエンス学会
12. 2008年03月10日～現在	日本地域福祉学会
13. 2006年07月～現在	日本社会福祉学会
14. 2006年06月～現在	日本社会福祉士会